

小金井市地域情報化推進委員会 第4回 会議記録カード		平成16年2月14日(土) 15時05分～ 17時10分		場 所	市役所第二庁舎 801会議室
出 欠	※■が出席、□は欠席				
	<p>■廣瀬委員長 ■和田委員長職務代理 ■伊藤委員 ■田口委員 ■嶋田委員</p> <p>□津田委員 ■岩下委員 ■榎平委員 □梶河委員 ■小室委員</p> <p>事務局 { □企画財政部長 ■情報システム担当課長 ■行政管理課主査 ■情報システム係主事 ■情報システム係主事</p>				
議 題	1 小金井市地域情報化推進委員会(第3回)会議記録カードの承認について				
	2 新アクションプラン(案)協働の仕組みづくりについて				
	3 新アクションプラン(案)事業の推進について				
	4 答申までの作業・手続きについて				
	5 その他				
傍聴の可否	可	傍聴者の数	6名	備考	
(議事進行:廣瀬委員長)					
1 小金井市地域情報化推進委員会(第3回)会議記録カードの承認について					
○p3「あろうかなかろうか」は「あろうがなかろうが」の誤り。					
○p7「参考煮して」は「参考にして」の誤り。					
○その他訂正等がなければ承認することとしたい。					
[意見・質疑応答など]					
-特になし。					
-本件については、承認され、以上で終了-					
2 新アクションプラン案 協働の仕組みづくりについて					
(本件については、事務局と嶋田委員が、それぞれ提出資料の説明をした。)					
○「協働の仕組みづくり」は新アクションプランの1章として組み入れた。(事務局)					
○前回委員会の議論に基づき、1つの総括的な場としてコミュニティポータルサイト運営協議会(以下「運営協議会」という。)を設置し、その下に専門部会を設置するものとした。(事務局)					
○運営協議会設立の準備として、市が事務局を務めるコミュニティポータルサイト運営協議会設立準備会(以下「設立準備会」という。)を設置し、参加者呼びかけ、規約検討					

等を行う。(事務局)
○市の事業の進捗を検証し、新アクションプランの見直しを含めた助言・提言を適宜行う場として、市は委員会等を設置するが、将来的には運営協議会への委託等も検討に値すると思われる。(事務局)
○事務局案と同じような内容だが、分かりやすいように図示した。(嶋田委員)
○小金井のことは何でも分かるというポータルサイトを市民の手で作るための組織を作る。組織づくりは市のリーダーシップでやる必要がある。(嶋田委員)
○組織の詳細は組織づくりの中で考えることとするが、市民の声がすんなりと入る、しかし、市民の合意をきちんと取っていく組織とする必要があるということ答申する必要がある。(嶋田委員)
○市の支援体制については、予算の優先順位が変更されるならば、市役所内部で議論をして、どんどんやってもらいたい。(嶋田委員)
○評価についても、第三者的な仕組みをつくる必要があると思う。(嶋田委員)
[意見・質疑応答など]
○嶋田委員の提案は、最初は小金井市主導によって準備を進めつつ、平成17年度以降は市民中心にだんだん比重を移し、市は支援をするというイメージがはっきりしている。また、具体的にコミュニティポータルサイトが核になりつつ、その下にいろいろな機能が自在に張り付いてくるイメージが現れている。運営費等の具体的なことは、設立準備会で詰めていくということになる。(委員長)
○ポータルサイトという言葉は、一般市民に分かりにくく、参加してもらいにくいのではないか。もっと易しい言葉にするという議論はなかったのか。(槇平委員)
ー小金井市IT戦略構想(以下「戦略構想」という。)の時からずっと使っており、議論はなかった。よい言葉があればご指摘いただきたい。(事務局)
ー代案はないが、このままではよくないと思う。(槇平委員)
ー辞書にも長い説明があるだけで、適当な訳語はない。(嶋田委員)
ーポータルという語では、見に行けば便利なサイトだと受け取ってもらえないというのはそのとおりだと思う。重要な課題として確認したい。(委員長)
ーそれで結構だ。(槇平委員)
ー名前を市民から公募すれば、市民の関心を高める材料になると思う。(岩下委員)
ー協議会の中で、市民の中で考え、盛り上げていくのは必要だと思う。(嶋田委員)

<p>－固有名詞としての親しみやすいニックネームと、それが何をするのかという説明的な言葉と2つ求められているのだと思う。設立準備会の課題として報告書に盛り込めればと考える。(委員長)</p>
<p>○経済課が進めている施策の中でTMO (Town Management Organization=中心市街地活性化法に基づく街づくり組織) が、当然、地域的な情報を集約する機能を期待されており、地域情報ビジネスネットワーク事業などで協働対象としておく必要があると思う。(委員長)</p>
<p>－専門部会に、運営協議会に足りない組織を入れていくということでは。必要な組織は限りなくあると思う。(嶋田委員)</p>
<p>○表1で、市民サービスの推進は協働対象なしとなっているが、検証・助言等のための委員会等が必要としており、それを反映したものにした方がよいのではないか。(委員長)</p>
<p>－基本計画の記述に従った。(事務局)</p>
<p>－基本計画で事業として挙がっているものについて、改めて検討した協働対象を、この表にまとめた方がよいと思う。(委員長)</p>
<p>－了解した。(事務局)</p>
<p>○事務局案では、新アクションプラン案の検証や見直し等も含めて委員会等を設置するとあり、その委員会の任務を運営協議会に委託することも選択肢の1つとしているが、そのあたりはどうか。(委員長)</p>
<p>－運営協議会も委員会もそうだが、ポータルサイトを作る側のイメージだ。市民側からの評価を検討しておく必要もあるのではないかと。(田口委員)</p>
<p>－事務局案はそこに踏み込んでいないが、必要性は認識している。よい方法はないか議論していただけないか。(事務局)</p>
<p>－委員会の設置の中に文書として、嶋田委員案にあるように、市民の声を反映していく方法を検討していくと書いておくのも手ではないか。(田口委員)</p>
<p>○特段、評価という言葉が事務局案では使わなかったが、それはよいか。(事務局)</p>
<p>－評価というのは難しいと思う。(田口委員)</p>
<p>－ある程度、客観的な視点で見ないと、自分勝手な主張がひとり歩きして、偏ってくる。そういう時に見直せるものとして、どこかに表現として入れておいた方がよい。(嶋田委員)</p>
<p>－運営協議会は実施主体として、自ら見直す他、客観的な視点が必要だ。しかし、あまり</p>

<p>新アクションプラン案に書いてしまうと、いろいろなところに委員会ができるだけで、</p>
<p>実質的に機能するか分からない。そういうところが問題である。(委員長)</p>
<p>－このページが面白かったとか、そういうものが計ればよいと思う。最近、いろいろな</p>
<p>ポータルにそういう仕掛けがついているが、それも1つの方法だ。あくまでも運営側と</p>
<p>は違う視点も取り入れようということだ。(田口委員)</p>
<p>－ポータルサイトにそういう仕組みを持たせる方法はいくつもあるだろうし、意見を寄せ</p>
<p>られる掲示板を設置することもできる。そうした場を設けて日常的に意見を集めればよ</p>
<p>い。逆に、そうした場の方が皆から見えるだけに、反対の意見も書き込まれ、軌道修正</p>
<p>されることなると思う。(岩下委員)</p>
<p>○委員会については、市の事業なので政治思想等が色濃く出ていないかというというチェ</p>
<p>ック機能と、市民としてサービス度をチェックする別々の機能があることを、明記する</p>
<p>必要がある。よい意見というものは、掲示板には書かれず、メールの相談窓口に来ると</p>
<p>思う。(小室委員)</p>
<p>－整理すると、公共性という観点からチェックする仕組みと、サービス充実のためのフィ</p>
<p>ードバックの仕組みと、2つの評価・改善のための仕組みがなければいけないというこ</p>
<p>とだ。(委員長)</p>
<p>○地域情報化事業は委託するというのであれば、チェック機能は市がやればよいのでは</p>
<p>ないか。もしくは、議会が行うとか。(小室委員)</p>
<p>－協働によって地域で一体的にやっていくものを誰が評価すべきかというのはなかなか</p>
<p>難しい。市も評価する責任はあるが、市だけが評価すればよいのではない。(委員長)</p>
<p>－市民感覚としては試行錯誤すればよいと思う。行政の計画として、きちんと評価・検証</p>
<p>方法について書かないといけないということか。(嶋田委員)</p>
<p>－新アクションプランには、協働によって行うものと、市が単独で行うものがある。それ</p>
<p>を分けるよりも、新アクションプラン案全体の検証の仕組みとして、行政以外の目が入</p>
<p>った仕組みはちゃんと持つ、協働事業についてはその特性を踏まえて評価を設計すると</p>
<p>いうようなことを書く。具体的にはここでは詰め切れないので、必要な機能を新アクシ</p>
<p>ョンプラン案に明記しておけばよいのではないか。(委員長)</p>
<p>－その方向で、書き改める。(事務局)</p>
<p>－本件については、大筋承認され、以上で終了－</p>

3 新アクションプラン案 個別事業の推進について
(本件については、事務局が資料にもとづいて説明した。)
○前回委員会の議論に基づき、協働対象を修正している。
○事業費については、未定のものが多いが、記載できるものについては記載し、現在、予
算要求中のものはその旨を記入した。事業費が0のものは、新規経費が発生しないとい
う意味であって、担当部署の人員及び事務費用はある。
○どういう方向が見えるような深みのある展望を記入せよというご意見に従い、展望を記
入した。
○特記事項の欄を新設し、特に留意すべき事項を記入した。
[意見・質疑応答など]
○財政厳しい折であり、費用は発生しないが実質的に推進が出来る体制を組んでいきたい
ということであろうと思う。(委員長)
○太字になっているところと斜体になっているところの違いは何か。(委員長)
ー太字は市が主たる主体として推進するもの、斜体は市は協働の中の1主体である事業で
ある。(事務局)
○コミュニティポータルサイトのコンテンツ整備の展望は、「市民が主体的に地域で活動
展開していく場合に必要な情報」とした方が、主体としての趣旨がはっきりしてよい。
(委員長)
ー市民が参加も出来るし、サービスも受けられるというイメージでよいか。(事務局)
ー前回、お祭りという議論があったが、お祭りを見に行くだけでなく、参加する場合に
どこに問い合わせるかというような情報が必要。そういう深みまで到達できる展望であ
るべきだ。(委員長)
○展望なのだから、3年間という期間でどこまで到達したいか、具体的に記述した方がよ
い。(伊藤委員)
○コミュニティポータルサイトの運営も、資金を集めて運営することが展望ではない。幅
広い人が参加して利用しやすいポータルサイトを作っていくというところが、ポイント
なのだと思う。(田口委員)
ー表現は難しい。(嶋田委員)
ー市民が何か地域について情報を求めようという時にアクセスする場となっているとい

うことが場としての目標であり、運営サイドでは関わりを持ちたいと思った時に入って
いく入り口があるという形で運営されているということだ。(委員長)
－展望にはそうした理想的な姿を書き、それを具体化する組織を、きちんと最初の段階で
市が関与して、間違いない方向で進めていくというのが書いてあればよい。(嶋田委員)
○具体的な方法はやるまで分からない。展望として、理想像を高らかに歌ってもよいと思
う。それを言っている部分と言っていない部分がある。(小室委員)
－作業的に書きやすい部分と書きにくい部分があるのではないか。(委員長)
－コミュニティポータルサイトの部分は一番書きにくい。ぜひ、意見を出していただきたい。(事務局)
○必要な中身がある、そういったものを作るという部分と、それが使われており、足りない
部分がきちんと補足されるという部分が、運営の展望の中身だ。(委員長)
－円滑というのが、運営の深みだろう。(小室委員)
－かつ、きちんと使われているというのも大事だ。(委員長)
－継続して高まっていくというイメージを出したい。小さくまとまっても仕方ない。それ
をどう表現したらいいか、考えている。(事務局)
○実際にどうなっていくかは時代の動きもあり、現在、いくら表現できても、またすぐに
修正しなければならないということも起きると思う。(嶋田委員)
－コミュニティの変化と成長を、サイトに反映できるような運営の仕組みをつくるという
ことを表現したい。(岩下委員)
－事務局として、コミュニティポータルサイトの運営では、より多くの主体の参加をとい
うイメージを持っているが、それを展望に書ききれていない。多くの人が見るサ
イトとしたいということも表現できていない。きちんと踏まえた表現としたい。(事務局)
○小金井市の人口等から考えて、この程度のアクセス数が欲しいというような仮の数字を
考える方法もある。(岩下委員)
○IT学習環境の整備の学校のホームページの展望は「特色ある活動を情報発信」とある
が、何を目的にして誰に向けて情報発信しているかがよく分からない。学校と地域の交
流の窓口としてホームページが持てるというのが望ましいのではないか。(委員長)
－担当部署の意識のズレがあってもいけないし、高い目標を書きすぎてもいけない。特に
学校の場合、校長がそういう考えでなかった場合、どこで調整を取るのかということに
なる。やはり、ある程度は余裕ある書き方とする必要もある。(嶋田委員)

<p>－「特色ある活動を情報発信」とすると、各学校は特色を出そうと窮屈になってしまう。</p>
<p>そうではなくてアクセスの窓口であることが理解できるとよい。(小室委員)</p>
<p>－「全校の活動を情報発信」とか、ふつうに書いてもよいのではないか。(嶋田委員)</p>
<p>－この委員会として答申したものは、行政内部で調整するので、あんまり先回りをしなくてもよいように思う。(委員長)</p>
<p>－展望は、将来あるべきという願いを書いているのか、予算の中でこうしたいというところで留めるのかということだ。場所によってアンバランスなのが気になる。(嶋田委員)</p>
<p>－基本的には事業の差であると思う。IT講習会は比較的書きやすいが、コミュニティポータルサイトは絵が描きにくい。数値的な設定は、必ずしも中身を保証しないので、できるだけよい言葉を選ぶようにしている。(事務局)</p>
<p>○「今あるホームページよりアクセス数が多い」というようなことは書いて欲しい。それより少なくても意味がない。(小室委員)</p>
<p>－今の市のホームページもさらに良くして、さらにアクセス数を増やそうということになる。コミュニティポータルサイトも、別の切り口で役割を担う訳だから、どちらも今のホームページよりはアクセス数を増やすということだ。(岩下委員)</p>
<p>－アクセス数を増やすのが目的ではないが、結果的に増えたアクセス数というのは、1つの分かりやすい目標となる。(小室委員)</p>
<p>○出来るだけ展望の中身は夢のある大きなものを書いてもらって、どうしても気になる部分は調整すればよい。(嶋田委員)</p>
<p>○各学校のクラブ活動等の中で情報発信するというようなものがあれば、開かれた学校へというコンセプトに繋がる。(岩下委員)</p>
<p>－確か、現在、学校でホームページは1校だけだったと思うが。(嶋田委員)</p>
<p>－増えている。6～7校見えるのではないか。(事務局)</p>
<p>－やはり内部の問題があって、全校に広げられないと聞いている。(嶋田委員)</p>
<p>－作る手間とか、作れる先生がいなくいかということか。(岩下委員)</p>
<p>－一般のサイトとのリンクなどの問題があるとのことだ。そういった実際的な問題をクリアするには時間がかかるので、あまり強く書いてもいけない。書いてあるのに、なぜ作らないとなってしまうと、非常にやりにくいだろう。(嶋田委員)</p>
<p>○今、小学校で顔をホームページで出すというのは非常に難しい。子どもに対して、変な大人がアクセスしてということがあるので、保護者の許可を得るか、顔をぼかすかした</p>

くてはならない。そういう難しさがある。(和田委員)
－そういうことは、ちゃんと教えてあげなくてはいけない。今、初めてそういう難しさがあることを知った。(小室委員)
○ホームページの作成の事業費はゼロとなっているが、誰がどうやって作っているのか。(田口委員)
－学校にはパソコン教室が全校配備され、プロバイダと契約しているので、ホームページ開設のために新たな費用は発生しない。ホームページ開設には先生方のプロジェクトチームが生まれ、IT教育アドバイザーが支援しており、人的にも新たな経費は必要ない。教材等についても、特色ある教育のための経費より支出されるため、特段の予算措置を必要しないということだ。(事務局)
○ネットワークのところだが、各教室や職員室にパソコンは入っているのか。(田口委員)
－パソコン教室のみだ。一部の学校で、職員室内などのLAN敷設の試行に取り組んでいる。(事務局)
－この校内LANとは、どこを結ぶのか。(田口委員)
－将来の計画としては、各教室に2台のパソコンを置き、校内LANで結び、教室で調べ学習ができるようになるはずだ。(和田委員)
－文部科学省から計画が出ており、それに準拠する形で整備を進める。(事務局)
－最終的には、公立小中学校の全教室にLANが繋がってパソコンが置かれている状態ということだ。(委員長)
－各教室では掃除等もあり、実際の現場では、各部屋にLANの口は来て、そこから先は無線LANでやるというような形になるだろう。(岩下委員)
○教員のITリテラシーの向上研修の展望で「情報発信に必要な技術」とあるが、教員に高度な技術を習得させるのが本当の目的なのかという議論があったはずだ。各学校に技術者を養成するのか、教員はパソコンを使って教える技術があればいいのかを、はっきりさせておくべきだ。(田口委員)
－IT活用の技術ということで表現を改めたい。(事務局)
－先ほどの顔写真とか、セキュリティ面ではどういう配慮をしなければいけないとか、そういう支援ができていて、それが分かっている人が数名は必要だ。(委員長)
－それは欲しい。(小室委員)
－セキュリティについては全員に必要である。(田口委員)

<p>－基本的な I T リテラシーに含まれると考えている。ただ、それを管理できる人が必要だ という考えだ。いずれにしても、表現は改めたい。(事務局)</p>
<p>－教育活動の中で I T を利活用できる人を増やすということによい。(岩下委員)</p>
<p>○ I T リテラシーのリテラシーは「格差」という意味で、適当ではないのではないか。(嶋 田委員)。</p>
<p>－リテラシーは識字能力で、社会における必要技能という意味だ。格差はデバインドであ る。(事務局)</p>
<p>－リテラシーという語は使わないほうがよいのではないか。(小室委員)</p>
<p>－基本計画で使っている言葉だ。(嶋田委員)</p>
<p>－文部省などでも使っている言葉である。(和田委員)</p>
<p>○ネットワーク利用の推進のところで、インターネットの回線はどの程度のものか。(岩 下委員)</p>
<p>－回線は C A T V である。教室の基本部分が 100M ベース、各端末が 10M ベースの速度で、 ある。インターネットへは 8M であると記憶している。(事務局)</p>
<p>－実際は、かなりフィルターが掛かっている、外を見る場合はちょっと遅くなる。(和田 委員)</p>
<p>○現状はどうなっているのか。資料が欲しい。(小室委員)</p>
<p>－あまり現状に捉われないでよい。少し長い目で見て、ここまで到達できればいいという 理想像を描いたほうがよいのではないか。そうではあっても、現状とのギャップが大き すぎるものがあれば、事務局から事情を説明してもらえばいい。(委員長)</p>
<p>－これから作らなければならないものばかりであり、それがよいと思う。(事務局)</p>
<p>○今の段階では、数値の目標はいらない。理想論でこんな形に持って行きますという文章 にしておくべきだ。(槇平委員)</p>
<p>－現実には難しいと思う事業も多いが、ここでは堂々と目標を述べている。それでいいと 思う。(嶋田委員)</p>
<p>－現状のままでは難しいものを、こうして計画化して推進していきたい。(事務局)</p>
<p>－最終的に 3 年経って評価して、その時に何が問題なのかを見直せばよい。前向きな表現 で展望を書くのがよい。(嶋田委員)</p>
<p>○今、インターネットを使っていない人が使いたいと思っている時に、I T 講習会に出れ ば、半年以内程度で、コミュニティポータルサイトを見られる程度になるという状況を</p>

作るということを書いたほうがよいのではないか。(委員長)
－知らず知らずの内に現状に捉われてしまっている部分があると思うので、具体的に書くべきことはご指摘いただければ、また、協議会や準備会で検討してもらえたらと思う。
(事務局)
－最初の入り口の保障を I T 講習会で書いた方がよいと思う。(委員長)
○公民館に端末が揃っていないなどの現実の問題がある。端末がないところで、コミュニティポータルサイトを見る人を増やすというのは困難であり、どう展望を書くかが難しい。(嶋田委員)
－ I T 講習会の事業費はゼロとなっているが、そのインフラを整備できないとなると大変厳しいのではないか。(岩下委員)
－市民サービスの向上で、公共施設ネットワークで情報受発信機器の整備を進める。(事務局)
－それを I T 講習会のところに書けなかったのか。(小室委員)
－別の事業である。(事務局)
－見にくい。(嶋田委員)
－講習会やるためだけではなく、誰でもアクセスできるように作るのだから。(委員長)
－注意書きのところに「必要なインフラについては公共施設ネットワークの項目に準じて目に準じて整備する」としておけば、分かりやすい。(岩下委員)
－了解した。工夫する。(事務局)
－地域にある大学などを活用する方法もある。(委員長)
○ I T 講習会は、現実にはどう行っているのか。(田口委員)
－細々と独自事業としてやっている。(事務局)
－人数的には申し込みは多いのか。(田口委員)
－多いと聞いている。ただ、事業としては細々とやっているだけなので、今後、どうやっていくかが課題だ。生涯学習課・公民館の事業としてやっているのが、市の独自事業である。この他に、社会福祉協議会や市内 N P O、そして、 I T サポートセンターで行っているものがある。(事務局)
－目標値みたいなのはあるか。(田口委員)
－いろいろな主体がいろいろな形で講習会を開いているのが実態。目標も相手もバラバラであり、それらを統合した市全体としての目標はない。(事務局)

<p>－計画として書くと美しいが実態は釈然としないものがある。都庁でも毎回十倍以上の申し込みで裁ききれない。市の状況としてどうやっていくかを明確化する必要がある。(田口委員)</p>
<p>－地域全体の目標としては、新アクションプランと基本計画ということになり、これに基づいて必要に応じて市としても働きかけることになる。また、協働の仕組みづくりができれば、その中で調整されると考えている。(事務局)</p>
<p>○新アクションプランも全体のスケジュールを事業毎に1つの表となったものを付けて欲しい。(槇平委員)</p>
<p>－了解した。(事務局)</p>
<p>○ここでいろいろ議論しているような問題があることも書いておけば、理解してもらえるのだと思う。(嶋田委員)</p>
<p>－了解した。(事務局)</p>
<p>－公民館の南センターで募集をかけている講座や失業対策で実施しているものもあるが、なかなか目に見えない。これだけ見ると誤解を招くおそれがある。(嶋田委員)</p>
<p>－本件については、閉会の時間となったため、下記のとおり継続となった－</p>
<p>4 答申までの作業・手続きについて</p>
<p>(本件については、委員長より提案があった。)</p>
<p>○方向としては、理想としてどうありたいということを書きで展望に書く。現状との間に検討の余地がある場合はフィードバックをするということとしたい。</p>
<p>○今日の協働の仕組みづくりの議論を踏まえて事務局案を24日を目処に再提示する。</p>
<p>○事務局案再提示までの間に、各委員は事業について意見をメーリングリストに出す。</p>
<p>○各委員の意見を踏まえて、事務局は最終案を提示する。</p>
<p>○特に改めて委員会を開く必要がなければ、委員長等に一任の上、調整して答申する。</p>
<p>[意見・質疑応答など]</p>
<p>○事務局としては、どのような作業が必要だと考えているか。(委員長)</p>
<p>－最終案が認められれば、市長に答申する。予定を連絡するので、ご都合のつく委員のご出席の上、直接市長に答申を渡し、委員会は任務終了ということになる。市では、答申を受けて、IT推進本部で検討し、最終的に計画を策定する予定だ。(事務局)</p>
<p>○事務局案再提示は10日程度でできるか。(委員長)</p>

<p>－事務局のまとめとしては24日を目処に、なるべく早く出すようにする。(事務局)</p>
<p>－委員の事業への意見は24日までに出すようにする。(委員長)</p>
<p>－異議なし。(委員各位)</p>
<p>○パブリックコメントのやり方について確認したい。委員会が主体となる方法と、市が主体となる方法がある。市が主体となる場合は、この委員会は1つの提案をし、その提案についてパブリックコメントを市に寄せて、最終的に市の責任で新アクションプランをまとめる。日程的にはその方が現実的であると委員長個人としては思うがどうか。(委員長)</p>
<p>－異議なし。(委員各位)</p>
<p>－この委員会の趣旨からしても、それがよいと思う。(楨平委員)</p>
<p>○では、2段階でメーリングリストで議論をした上で、最終的な取りまとめについて、これでいけるということになれば、文言の調整については一任していただき、年度の終わり頃と思うが、市長に答申をするということによいか。(委員長)</p>
<p>－異議なし。(委員各位)</p>
<p>－答申する際には、せっかくの機会なので、しっかりやってほしいと直接に市長に申し上げたい。(委員長)</p>
<p>－事務局で、そちらの方は用意する。(事務局)</p>
<p>－本件については、承認され、以上で終了－</p>
<p>5 傍聴人の発言について</p>
<p>○傍聴人の方でご発言のある方はいないか。(委員長)</p>
<p>[傍聴者からの意見]</p>
<p>○業者の立場で参加しているが、先ほど嶋田委員が仰ったとおり、言葉に専門用語を使いすぎていると反省している。議事録にあったように、ITに合わせて使う人の技術を上げるのではなく、ITの方で必要な技術レベルを下げた方がよいと思う。</p>
<p>○初めて傍聴した前原町の住人だ。現在、予算要求中で議会審議を経て予算がつくという説明だったが、予算要求はして内示は出たということか。もう盛り込まれているから、議会の審議の結果で決まるとした方が誤解がない。それから、メーリングリストを通じて意見交換をされているようだが、それがウェブに反省される場所もあり、そういった工夫をされればよかったと思う。また、配布資料もネット上で見られるとよいと思う。</p>

携帯サイトの必要性だが特に防災上で役立つと思われる。日常的に身体障害を持っている方や子連れの人のお出かけサイトとしてポータルサイトがあれば、いざというときにどこに食料や水があり、誰が誰を探しているとかいう活用ができる。掲示板の議論があったが、メールフォームで十分か、承認式の掲示板が適切だと思う。学校情報の公開の必要性では、学校関係者を孤独にしないという意味がある。負担の多い先生や、いじめの子どもに役立つという観点を私は持っている。ITリテラシーでは、子どもたちからのメールでは名前も書かないものも多い。そういった基本的な部分も含めてもらえる小金井市だと思っているので、今日の議論は興味深かった。事務局は、市民からのニーズをたくさん受け取っているはずなので、それを出して欲しい。施設予約ができたらいいいとか、健康情報とか、市の行事とか、プロポーザル受付とか、そうした情報が小金井市民としては使える情報であると思うし、せめて英語はあってほしいし、色覚に障害を持っている人や老眼の人にもみやすいという工夫があってほしい。とにかく予算がない市なので、サイトの基本デザインなどは市民公募とすれば予算が浮くと思う。

－本件については、以上で終了－

6 その他

○源泉徴収票を交付したのでご査収いただきたい。(事務局)